



2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年5月9日

上場会社名 株式会社ホットマン 上場取引所 東
 コード番号 3190 URL <http://www.yg-hotman.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 伊藤 信幸
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役兼管理本部長 (氏名) 柳田 聡 TEL 022-243-5091
 定時株主総会開催予定日 2023年6月26日 配当支払開始予定日 2023年6月6日
 有価証券報告書提出予定日 2023年6月26日
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期の業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	21,801	4.4	378	△11.6	436	△15.1	187	△29.5
2022年3月期	20,891	△2.1	428	△27.7	514	△22.2	265	△22.2

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	26.55	—	2.7	2.8	1.7
2022年3月期	37.64	—	3.8	3.3	2.1

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期 ー百万円 2022年3月期 ー百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	15,911	7,000	44.0	992.15
2022年3月期	15,464	6,917	44.7	980.48

(参考) 自己資本 2023年3月期 7,000百万円 2022年3月期 6,917百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	747	△687	△426	887
2022年3月期	117	△642	△94	1,254

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 10.00	円 銭 10.00	百万円 70	% 26.6	% 1.0
2023年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	70	37.7	1.0
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00		35.3	

3. 2024年3月期の業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,300	0.9	△186	—	△158	—	△140	—	△19.84
通期	21,900	0.4	400	5.6	450	3.0	200	6.8	28.35

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期	7,275,500株	2022年3月期	7,275,500株
② 期末自己株式数	2023年3月期	220,000株	2022年3月期	220,000株
③ 期中平均株式数	2023年3月期	7,055,500株	2022年3月期	7,055,500株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 財務諸表及び主な注記	6
(1) 貸借対照表	7
(2) 損益計算書	8
(3) 株主資本等変動計算書	9
(4) キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(持分法損益等)	12
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度における我が国の経済環境は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化が進み、景気回復の兆しが見られたものの、世界的な資源・原材料価格の高騰、更には金融資本市場の変動等の影響が懸念されており、先行きは不透明な状況が続いております。

当社におきましても、人流回復による持ち直しの動きが見られる一方、物価高騰による消費マインドの低下に加え、年々上昇する最低賃金に伴う人件費の増加、水道光熱費及び備品価格等の上昇により費用は増加傾向にあり、依然として厳しい状況が続いております。

そのような環境の中、会社方針に『熱意は力なり（熱意は人を動かす！自分が真剣に取り組む事が大切）』を掲げ、自ら熱意を持って接客や行動する事により、「売上総利益額の確保」と「節電を中心とした費用削減」を全社一丸となって取り組んで参りました。

2022年4月に宮城県仙台市太白区にシャトレゼ南仙台店、同年8月に福島県南相馬市にイエローハット原町店を道路の向かい側へ新築移転し、同建物2階に「ダイソー」の新規出店を行い、2023年3月には宮城県栗原市に当社2号店となるシャトレゼ築館店を新規出店（グランドオープンは同年4月）致しました。当事業年度末の店舗数は、イエローハットが90店舗、TSUTAYAが9店舗、アップガレージが8店舗、カーセブンが3店舗、ダイソーが6店舗（前年同期間比1店舗増）、コメダ珈琲店が1店舗、シャトレゼが2店舗（前年同期間比2店舗増）、宝くじ売場が5店舗の合計124店舗（前年同期間比3店舗増）となっております。

この結果、当事業年度の業績は、売上高は21,801百万円となり、前事業年度比910百万円（前事業年度比4.4%増）の増収となりました。経常利益につきましては436百万円となり、前事業年度比77百万円（前事業年度比15.1%減）の減益となりました。当期純利益は187百万円となり、前事業年度比78百万円（前事業年度比29.5%減）の減益となりました。増収の要因は主として、イエローハット事業における度重なる値上げとそれに伴う駆け込み需要によりタイヤ関連の販売及び車検台数が好調に推移したこと並びに新規事業であるシャトレゼの新規出店等により売上高が増加したことによるものとなっております。減益の要因は主として、人件費や電気料金等の上昇及び店舗の新築移転や新規出店による費用の増加並びに2022年12月の非連結子会社の清算に伴うものとなっております。

セグメント別の業績は次の通りであります。

[イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、2022年8月に福島県南相馬市にイエローハット原町店を道路の向かい側へ新築移転致しました。度重なる値上げとそれに伴う駆け込み需要によりタイヤ関連の販売が好調に推移したこと及び車検等カーメンテナンスの販売注力により粗利額が向上したこともあり、好調に推移致しました。

この結果、当事業年度の業績は、売上高16,725百万円（前事業年度比2.0%増）、セグメント利益（営業利益）は742百万円（前事業年度比2.4%増）となっております。

[TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、7月以降ゲームを中心に回復基調にはあったものの4月からの累計では振るわず、レンタル部門についても低調に推移致しました。

粗利率の改善及び向上をはかるべく全店へのコミックレンタルの導入及びコスメ商品等雑貨の新規取り扱いを始めたものの、書籍を中心に核となるタイトルの発売がなかったこともあり、低調に推移致しました。

この結果、当事業年度の業績は、売上高2,116百万円（前事業年度比4.2%減）、セグメント損失（営業損失）は102百万円（前事業年度は79百万円のセグメント損失（営業損失））となっております。

[アップガレージ]

アップガレージ事業におきましては、イエローハット事業同様の推移となりました。また、カー用品の買取については、中古車市場の活性化に伴い件数が増加したことにより、好調に推移致しました。

この結果、当事業年度の業績は、売上高1,081百万円（前事業年度比10.7%増）、セグメント利益（営業利益）は77百万円（前事業年度比58.0%増）となっております。

[その他]

その他事業におきましては、2022年4月に宮城県仙台市太白区にシャトレーゼ南仙台店、同年8月に福島県南相馬市にダイソー原町店及び2023年3月にシャトレーゼ築館店（グランドオープンは同年4月）を新規出店致しました。シャトレーゼの新規出店等によりその他事業の全体売上高に貢献致しました。また、中古車市場は、コロナ禍による三密回避の移動手段及び新車の納期遅延により活性化していることもあり、カーセブン事業は好調に推移致しました。

コマダ事業、保険事業及び不動産賃貸事業は好調に推移致しました。

宝くじ事業は低調に推移致しました。

新規出店等が続いたことにより費用が増加し、セグメント利益（営業利益）については減益となっております。

この結果、当事業年度の業績は、売上高1,877百万円（前事業年度比44.6%増）、セグメント利益（営業利益）は105百万円（前事業年度比10.0%減）となっております。

(2) 当期の財政状態の概況

① 資産

当事業年度における流動資産の残高は153百万円増加し、8,137百万円（前事業年度末7,984百万円）となりました。これは主に、現金及び預金が365百万円減少したものの、商品が390百万円及び売掛金が85百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産の残高は294百万円増加し、7,774百万円（前事業年度末7,479百万円）となりました。これは主に、建設仮勘定が149百万円減少したものの、新規出店や移転に伴い建物が236百万円及び土地が203百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産残高は15,911百万円（前事業年度末15,464百万円）となりました。

② 負債

当事業年度における流動負債の残高は587百万円増加し、6,374百万円（前事業年度末5,787百万円）となりました。これは主に、買掛金が418百万円及び未払金が157百万円増加したことによるものであります。

また、固定負債の残高は221百万円減少し、2,536百万円（前事業年度末2,758百万円）となりました。これは主に、退職給付引当金が89百万円増加したものの、長期借入金が309百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は8,911百万円（前事業年度末8,546百万円）となりました。

③ 純資産

当事業年度における純資産の残高は82百万円増加し、7,000百万円（前事業年度末6,917百万円）となりました。これは、当期純利益を187百万円計上したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、887百万円となりました。

当事業年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、747百万円（前事業年度は117百万円の収入）となりました。

これは主に、棚卸資産の増加が391百万円及び法人税等の支払額が119百万円あったものの、仕入債務の増加が418百万円、税引前当期純利益354百万円及び減価償却費355百万円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、687百万円（前事業年度は642百万円の支出）となりました。

これは主に、関係会社株式の売却による収入が117百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が824百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、426百万円（前事業年度は94百万円の支出）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出が344百万円あったことによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
自己資本比率 (%)	45.1	45.2	44.2	44.7	44.0
時価ベースの 自己資本比率 (%)	28.0	22.2	23.8	26.3	25.6
キャッシュ・フロー対 有利子負債比率 (年)	6.3	9.1	3.8	36.3	5.2
インタレスト・ カバレッジ・レシオ (倍)	20.5	16.6	44.7	5.0	33.3

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注2) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注3) 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

(4) 今後の見通し

2024年3月期の見通しにつきましては、2023年3月期と同様に売上総利益率の向上策を推進し、「利益の確保」を計画しております。

主たる事業であるイエローハット事業におきましては、車検販売を主軸にカーメンテナンス等工賃収入の増加を計画しております。

TSUTAYA事業においては、営業時間の変更及び多様化する顧客のニーズに応えるべく業務内容の改善を計画しております。

アップガレージ事業及びその他については、新規出店店舗による費用増があるものの概ね横ばいと予想しております。

物価高騰による節約志向は緩やかに回復するものの、人件費や電気料金をはじめとする費用は全般的に増加するものと予想しており、通期の売上高は増収を予定するも、営業利益、経常利益及び当期純利益に関しましては、概ね横ばい予想となります。

翌事業年度の売上高は21,900百万円、経常利益は450百万円、当期純利益200百万円を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は日本基準による非連結決算を実施しております。今後の I F R S (国際財務報告基準) 導入に関する動向を注視しつつ、適切に対応する体制の整備に努めて参ります。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,354,317	989,110
売掛金	707,068	793,060
商品	5,394,179	5,784,832
貯蔵品	1,346	1,914
前払費用	142,860	134,446
未収入金	357,452	410,132
その他	27,168	23,965
流動資産合計	7,984,394	8,137,462
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,125,299	2,362,231
構築物（純額）	154,269	228,554
車両運搬具（純額）	56,110	46,617
工具、器具及び備品（純額）	265,250	396,423
土地	2,117,777	2,320,859
リース資産（純額）	3,597	0
建設仮勘定	151,574	2,200
有形固定資産合計	4,873,878	5,356,886
無形固定資産		
無形固定資産	11,441	23,895
投資その他の資産		
投資有価証券	169,295	193,294
関係会社株式	261,394	116,030
長期前払費用	42,455	36,295
繰延税金資産	926,117	916,582
長期預金	33,200	31,650
敷金及び保証金	1,122,235	1,080,664
リース投資資産	39,607	18,949
その他	180	180
投資その他の資産合計	2,594,486	2,393,647
固定資産合計	7,479,806	7,774,429
資産合計	15,464,200	15,911,892

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,142,755	1,560,848
短期借入金	3,050,000	3,050,000
1年内返済予定の長期借入金	344,992	309,993
リース債務	10,856	6,171
未払金	207,557	364,776
未払費用	211,642	219,703
未払法人税等	147,656	170,920
未払消費税等	29,688	51,142
前受金	84,844	78,570
預り金	30,421	30,563
賞与引当金	88,666	90,416
契約負債	414,751	434,077
その他	23,710	7,700
流動負債合計	5,787,543	6,374,882
固定負債		
長期借入金	826,676	516,683
リース債務	52,204	46,033
退職給付引当金	1,496,356	1,585,942
役員退職慰労引当金	157,335	161,722
資産除去債務	172,566	175,954
長期預り敷金保証金	53,370	50,553
その他	385	22
固定負債合計	2,758,894	2,536,911
負債合計	8,546,438	8,911,793
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金		
資本準備金	500,645	500,645
資本剰余金合計	500,645	500,645
利益剰余金		
利益準備金	42,692	42,692
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	68,811	65,511
別途積立金	1,230,000	1,230,000
繰越利益剰余金	3,132,944	3,253,022
利益剰余金合計	4,474,448	4,591,227
自己株式	△108,380	△108,380
株主資本合計	6,777,358	6,894,137
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	140,403	105,960
評価・換算差額等合計	140,403	105,960
純資産合計	6,917,762	7,000,098
負債純資産合計	15,464,200	15,911,892

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	20,891,452	21,801,939
売上原価		
商品期首棚卸高	5,191,275	5,394,179
当期商品仕入高	11,902,386	12,642,220
合計	17,093,661	18,036,400
他勘定振替高	44,640	41,118
商品期末棚卸高	5,394,179	5,784,832
商品売上原価	11,654,841	12,210,450
売上総利益	9,236,611	9,591,489
販売費及び一般管理費	8,808,278	9,212,675
営業利益	428,333	378,814
営業外収益		
受取利息	3,599	2,848
受取配当金	17,239	12,047
受取手数料	23,217	19,348
受取報奨金	9,959	9,533
産業廃棄物収入	17,289	18,464
その他	42,562	24,729
営業外収益合計	113,868	86,972
営業外費用		
支払利息	23,393	22,504
その他	4,490	6,490
営業外費用合計	27,883	28,994
経常利益	514,317	436,792
特別利益		
関係会社株式売却益	43,937	105,101
特別利益合計	43,937	105,101
特別損失		
減損損失	81,139	72,184
固定資産除却損	21	3,322
関係会社株式評価損	—	59,160
貸倒損失	—	43,637
災害による損失	24,891	—
解体撤去費用	4,352	9,234
特別損失合計	110,405	187,538
税引前当期純利益	447,850	354,355
法人税、住民税及び事業税	120,538	142,399
法人税等調整額	61,747	24,621
法人税等合計	182,286	167,021
当期純利益	265,564	187,334

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					圧縮記帳積立金	別途積立金
当期首残高	1,910,645	500,645	500,645	42,692	72,082	1,230,000
会計方針の変更による累積的影響額						
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,910,645	500,645	500,645	42,692	72,082	1,230,000
当期変動額						
剰余金の配当						
当期純利益						
圧縮記帳積立金の取崩					△3,271	
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)						
当期変動額合計	—	—	—	—	△3,271	—
当期末残高	1,910,645	500,645	500,645	42,692	68,811	1,230,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	3,039,686	4,384,461	△108,380	6,687,371	207,116	207,116	6,894,488
会計方針の変更による累積的影響額	△105,021	△105,021		△105,021			△105,021
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,934,664	4,279,439	△108,380	6,582,349	207,116	207,116	6,789,466
当期変動額							
剰余金の配当	△70,555	△70,555		△70,555			△70,555
当期純利益	265,564	265,564		265,564			265,564
圧縮記帳積立金の取崩	3,271	—		—			—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					△66,713	△66,713	△66,713
当期変動額合計	198,280	195,009	—	195,009	△66,713	△66,713	128,295
当期末残高	3,132,944	4,474,448	△108,380	6,777,358	140,403	140,403	6,917,762

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					圧縮記帳積立金	別途積立金
当期首残高	1,910,645	500,645	500,645	42,692	68,811	1,230,000
当期変動額						
剰余金の配当						
当期純利益						
圧縮記帳積立金の取崩					△3,299	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	—	—	△3,299	—
当期末残高	1,910,645	500,645	500,645	42,692	65,511	1,230,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	3,132,944	4,474,448	△108,380	6,777,358	140,403	140,403	6,917,762
当期変動額							
剰余金の配当	△70,555	△70,555		△70,555			△70,555
当期純利益	187,334	187,334		187,334			187,334
圧縮記帳積立金の取崩	3,299	—		—			—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					△34,442	△34,442	△34,442
当期変動額合計	120,078	116,779	—	116,779	△34,442	△34,442	82,336
当期末残高	3,253,022	4,591,227	△108,380	6,894,137	105,960	105,960	7,000,098

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	447,850	354,355
減価償却費	337,357	355,996
減損損失	81,139	72,184
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△102	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4,666	1,750
関係会社株式売却損益 (△は益)	△43,937	△105,101
受取利息及び受取配当金	△20,839	△14,896
支払利息	23,393	22,504
解体撤去費用	4,352	8,290
売上債権の増減額 (△は増加)	△59,202	△85,991
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△202,461	△391,220
未収入金の増減額 (△は増加)	△27,706	△52,679
仕入債務の増減額 (△は減少)	140,840	418,092
未払金の増減額 (△は減少)	△50,439	91,109
未払費用の増減額 (△は減少)	△178,677	8,068
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△178,283	21,453
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,387	4,387
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	116,439	89,586
契約負債の増減額 (△は減少)	4,125	19,325
関係会社株式評価損	—	59,160
固定資産除却損	21	3,322
災害による損失	24,891	—
貸倒損失	—	43,637
その他	8,496	△48,660
小計	426,978	874,673
利息及び配当金の受取額	20,839	14,895
利息の支払額	△23,292	△22,424
法人税等の支払額	△306,934	△119,640
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,590	747,504
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△673,358	△824,656
有形固定資産の売却による収入	—	—
関係会社株式の売却による収入	49,846	117,776
定期預金の預入による支出	△58,200	△48,200
定期預金の払戻による収入	13,600	48,800
敷金及び保証金の差入による支出	△6,472	△12,377
敷金及び保証金の回収による収入	35,704	53,987
その他	△3,962	△22,587
投資活動によるキャッシュ・フロー	△642,842	△687,257
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△200,000	—
長期借入れによる収入	600,000	—
長期借入金の返済による支出	△408,348	△344,992
配当金の支払額	△70,555	△70,555
リース債務の返済による支出	△15,759	△10,856
財務活動によるキャッシュ・フロー	△94,662	△426,403
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△619,914	△366,157
現金及び現金同等物の期首残高	1,873,965	1,254,050
現金及び現金同等物の期末残高	1,254,050	887,893

(5) 財務諸表に関する注記事項
(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(持分法損益等)
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は、フランチャイジーとして展開する各事業を基本的な構成単位として、経営資源の配分の決定を行い業績を評価しているため、商品・サービス別のセグメントから構成されております。

当社は、カー用品の販売、取付、車検、整備等を行う「イエローハット事業」、DVD・CD・書籍等のレンタル・販売等を行う「TSUTAYA事業」、中古カー用品の買取・販売の「アップガレージ事業」を中心として事業活動を展開していることから、「イエローハット事業」「TSUTAYA事業」「アップガレージ事業」を報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために採用される会計処理の原則及び手続に概ね準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は実勢価格を勘案して予め定めた合理的な金額に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	財務諸表 計上額 (注) 3
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	16,405,451	2,210,212	976,877	19,592,541	1,298,911	20,891,452	—	20,891,452
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	16,046	1,507	529	18,084	22,077	40,162	△40,162	—
計	16,421,497	2,211,720	977,407	19,610,625	1,320,989	20,931,614	△40,162	20,891,452
セグメント利 益又は損失 (△)	725,607	△79,254	48,783	695,136	117,216	812,352	△384,019	428,333
セグメント資 産	9,813,262	1,775,762	500,116	12,089,141	913,404	13,002,545	2,461,654	15,464,200
その他の項目								
減価償却費	213,959	36,669	25,977	276,606	29,163	305,770	9,477	315,247
有形固定資産及び 無形固定資産の増 加額	512,547	12,479	9,498	534,525	170,286	704,811	12,979	717,791

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、コマダ事業及び保険収入等を含んでおります。

2. 調整額は、以下の通りであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△384,019千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額2,461,654千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、繰延税金資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額9,477千円は、管理部門の資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	財務諸 表 計上額 (注) 3
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	16,725,881	2,116,532	1,081,797	19,924,211	1,877,727	21,801,939	—	21,801,939
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	14,027	1,718	297	16,042	21,795	37,838	△37,838	—
計	16,739,908	2,118,251	1,082,094	19,940,254	1,899,523	21,839,777	△37,838	21,801,939
セグメント利益 又は損失 (△)	742,712	△102,695	77,073	717,090	105,499	822,589	△443,775	378,814
セグメント資産	10,356,921	1,664,963	560,337	12,582,223	1,347,001	13,929,224	1,982,667	15,911,892
その他の項目								
減価償却費	224,122	32,961	19,952	277,037	46,568	323,605	13,636	337,241
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	570,157	3,735	55,782	629,674	400,665	1,030,340	29,263	1,059,603

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、コマダ事業、シヤトレゼ事業及び保険収入等を含んでおります。

2. 調整額は、以下の通りであります。

- (1) セグメント利益又は損失 (△) の調整額△443,775千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額1,982,667千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、繰延税金資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額13,636千円は、管理部門の資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	980.48円	992.15円
1株当たり当期純利益金額	37.64円	26.55円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益金額 (千円)	265,564	187,334
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額 (千円)	265,564	187,334
期中平均株式数 (株)	7,055,500	7,055,500

(重要な後発事象)

該当事項はありません。